

中高年及び高齢者の社会参加等に関する県民意識調査
調査結果

◆ 調査の概要

1 目的

高齢者がいきいきと活躍できる社会の実現を図るため、高齢者の社会参画や就労に関する意識調査を高齢者及び高齢期を迎える中高年者を対象に実施し、今後の施策推進のための基礎資料とする。

2 調査対象 県内在住の40歳以上の個人3,000人（選挙人名簿に基づく無作為抽出）

3 調査方法 自記式、郵送法

4 調査期間 令和元年7月～8月

5 回答数 1,314人（回収率43.8%）

6 調査結果のポイント（全体）

<社会貢献活動をしてみたい人は過半数にのぼる>

- ・過半数の人（54.7%）が、ボランティア活動やNPO活動など地域社会に貢献する活動をしてみたいと思っている。

<高齢者の社会活動への参加実績>

- ・65歳以上の人約8割（79.0%）が、社会活動（就労を含む）の参加実績がある。

<性別や年齢により関心がある活動>

- ・男性は、まちづくりや、防犯・防災、災害救護・復旧など、地域に役立つ活動に関心があり、女性は、子育てや、介護・福祉、健康増進など人の役に立つ活動に関心がある。
- ・年齢が上がるにしたがって、健康増進への関心が高まる。

⇒一人ひとりの興味のある活動分野への参加を促進する

<高齢者の情報化が進行>

- ・65～74歳の人のうち、スマートフォンを利用している人は46.5%、携帯電話（ガラケー）を利用している人は45.6%と、わずかであるがスマートフォンを利用している人の方が多くなっている。
- ・65～74歳の約6割（59.8%）がメールを、3人に1人がLINE（34.6%）を、Yahooやグーグルなどの検索エンジン（32.5%）を利用している。

⇒インターネットを活用した情報発信を進める

<働くことへの希望、不安>

- ・「今後（定年退職後）も働きたい」という希望を、60歳未満では7割以上の人、60～69歳でも半数以上の人を持っている。
- ・希望する仕事内容は「専門的・技術的な仕事」が多く、資格や能力・知識を活かした仕事を希望していることがうかがえる。
- ・働くことに対する不安では、いずれの年齢でも「健康・体力への不安」が最も多いほか、60歳未満では「希望する仕事が見つかるか」も多い。